



札幌市議会議員 厚別区

こじま ゆみ

「みんなで考える これからの雪対策」

～課題多岐に 高齢化・財源確保・気候変動に対応急ぐ～

札幌市では、未来に向けて持続可能な雪対策をめざし「札幌市雪対策審議会」を立ち上げました。高齢化や人口減少で除雪の担い手が少なくなるなか、どなたも安心して冬を過ごせる街づくりが必要です。

この審議会では、市民のみなさまの声や専門家の知恵を生かし、2026年度に新しい「基本方針」を、2027年度にこれから10年間の方向を示す「基本計画」をまとめる予定です。



主な課題は4つ

- 除雪の担い手の確保・作業の効率化
- 気象や市民ニーズに対応した除雪方法の見直し
- 限られた財源での工夫
- 市民との協力・理解の促進

生活道路の除雪はどうなる？

生活道路の排雪は、市と地域が協力する「パートナーシップ排雪制度」に支えられていますが、費用や人手不足が課題です。

そこで札幌市は、方法の見直しや試験運用を重ねながら、より良い仕組みを考えていきます。なお、今年度は実証実験として厚別区でパートナーシップを行わず、市が直接除排雪を行うことになりました。



市民の皆さまとともに

札幌の冬を安全で快適に過ごすためには、市民のみなさまとの「対話」が欠かせません。アンケートや意見交換の場を通じて、さまざまな声を取り入れながら雪対策を進めていきます。



今後の検討予定

R8（2026）年 度：雪対策の「基本方針」の策定。パートナーシップ排雪制度等も含む、今後の生活道路除排雪の在り方の方向性を整理します。

R9（2027）年度以降：R8年度の方向性を踏まえて、生活道路の除排雪手法を決定します。

※除排雪手法を見直す場合は、地域や除雪事業者の準備・調整等に時間がかかります。

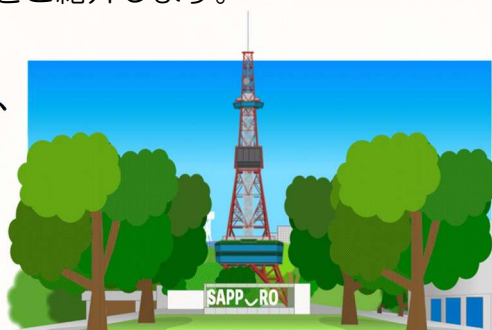
札幌市の未来を支えるデジタル戦略

ー スマートシティ推進部の取り組み ー

札幌市では、人口減少や担い手不足といった課題に対応するため、デジタル技術を活用したまちづくり「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」を進めています。市民生活をより便利に、行政をより効率的にするための取り組みをご紹介します。

令和7年に策定された「第2次 ICT 活用戦略」では、

- 行政サービスのデジタル化
- 官民連携によるデータ活用
- 働きやすいデジタル環境づくり



を3つの柱とし、市民に身近なサービス改善をめざしています。



具体的な取り組みとして、市と企業が協力し、新しいサービスの実証実験を進めています。

2025年4月からは、市営地下鉄でクレジットカードによる「タッチ決済」の実験が始まり、

切符を買わずにスムーズに改札を通過できる便利な未来に向けた取り組みです。

また、マイナンバーカードを活用すると、コンビニで証明書が安く、早く取得できます。健康保険証としての利用、薬剤情報の共有や医療費控除など、暮らしの中でさまざまなメリットがあります。

今後は免許証との一体化も予定されています。



さらに、データを活かした新しいまちづくりをめざし、「さっぽろ圏データ取引市場」を整備中です。企業が持つデータを登録・活用できる仕組みを進めることで、新しいビジネスや市民サービスの可能性が広がっています。

こじまゆみ政務調査室

〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条5丁目8-20 TEL011-896-6633